

はじめに

講習会を受講して、多くの最先端の知識を得ることができ、業務や社会の見方が一新した。中でも児童担当として、「日本の中高生は図書館利用率が落ちるが、欧米では一番利用の多い年代だ。」という常世田講師のお話やアメリカの図書館の姿に衝撃を受けた。その年代の体験による、図書館が役に立つ実感と信頼感の構築が、大人になった際のより深い情報活用に大きく影響していると思えてならない。「自己判断自己責任型社会」への過渡期において、大人への支援はもちろんのこと、子どもたちの将来に向けた情報収集基盤を築く支援の重要性と、児童担当としてもっとできることがあるのではないかと改めて感じた。教育体制の違いで諦めないための様々な手法を学び得たので、それをもとに一步踏み出すための企画を考察していきたい。

1 紫波町の課題と取り組み

1-1 現状と課題

現状

- ・人口約 33,000 人(2022 年 2 月末時点)。
- ・自然豊かで農業が基幹産業。食糧自給率 170%。
- ・着実に少子高齢化が進み、主に進学・就職世代の転出超過が顕著である。以降の全年代の転入者数を足しても補えず、町に人が戻りにくい。(図 1)
- ・令和 2 年(2020)度の町内有効求人倍率は 0.57%。¹
- ・事業所数は 1,177、従業者数は 10,000 人を切っている。²

図 1 紫波町男女別転入超過数(平成29年)

紫波町男女別転入超過数(平成29年)			
(- は転出超過)			
年齢	人数	年齢	人数
0~4歳	24	50~54	3
5~9	7	55~59	14
10~14	9	60~64	0
15~19	-75	65~69	-2
20~24	-92	70~74	6
25~29	0	75~79	6
30~34	14	80~84	7
35~39	7	85~89	0
40~44	4	90歳以上	-1
45~49	8	総数	-61

e-Stat「住民基本台帳人口移動報告」を基に筆者作成

人口流出には、利便性や娯楽など様々な要因も考えられるが、定住や U ターン増加を図る際、次の 2 つの課題に着目したい。

①町を知り、愛着を持つ機会の創出

「昔は大規模な地区行事や郷土芸能の継承に家族で参加し、地域や人を知る機会があったが、今は行事も参加者も減少した。」「生活様式の変化や核家族化も相まって、特に子どもは知る機会を得難い。」との声がある。町や人を知り、関わることで愛着を持つ機会が失われていて、町も『第三次紫波町総合計画基本構想・前期基本計画』³にて、地域への関心を高

める取組みと次世代人材育成を課題としている。

②雇用の創出や職業支援

近隣の町のベッドタウンを担っていることもあるが、『まちの通信簿 2019』⁴では、施策項目の必要度で「雇用」が1位となり、10代の方から「若者の雇用促進に力を入れてほしい。住み続けたくとも、将来を思うと安心して住めない。」とのコメントも見受けられる。一方、既存産業や、高い技術の継承者がいない声もよく耳にする。受け皿となる雇用の創出や産業支援を行いつつ、求める人が自らの能力を発揮でき、心地よく生活するための働く場所へといかに繋げられるかが課題と考える。

1-2 現在行っている取組み

- ①子どもと保護者と地域がつながるために、今年度から町内全校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度の導入）⁵が開始された。子どもたちの関心の高まりが期待される。
- ②地方創生の一環で、人口減少問題の克服と稼ぐ力の確保のため『紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略』⁶を策定。「ローカル経済でしごとが生まれる」等4つの基本目標のもと、9つの連携プロジェクトを展開している。

2 図書館の取組みと課題

2-1 図書館で取り組んできたビジネス支援

【全般】

- ・ビジネス支援コーナー…雑誌やパンフレット、求人情報を含めた情報の収集、提供。中高生向けにはティーンズコーナー内で進学や就職関連の情報提供。
- ・就労相談会・自己分析セミナー…もりおか若者サポートステーション⁷と連携し、館内でほぼ毎月開催。

【基幹産業の農業関連】

- ・農業支援コーナー…「ルーラル電子図書館」を導入。個人で購入し難い事典等の専門資料、映像資料から家庭菜園の雑誌まで幅広く情報を収集、提供。
- ・出張としょかん…遠方地区6か所の公民館で、農業技術のDVD上映や講演による情報提供。
- ・産直マルシェとの連携…産直の商品付近に、関連の料理本POPを掲示。図書館内にはコーナーを作り、図書館から産直、産直から図書館へと活用できる情報を提供。
- ・企画展示等各種イベントの開催…町内生産者紹介や鳥獣害対策などの展示、「夜のとしょかん」等のトークイベント、農家の方の語り合いのイベントなど。町の活動や人を拾い上げ、

情報提供の機会を創出。

2-2 課題

①支援方法の改革

「子どもたち(0歳～高校生)と本をつなぐ」「紫波町に関する地域資料を収集・保存する」「紫波町の産業支援をする」を運営の三本柱としている。将来の担い手である子どもたちへの支援は、重要な柱の一つであるが、当館の子ども向けビジネス支援は、コーナー作成、パンフレット等を含む資料提供にとどまっていた。

就労相談会・自己分析セミナーは高校生も対象だが、参加事例は少ない。しかし、図書館での職場体験参加者(2022年度の高校生)から「部活や塾等で忙しいから、固定日のイベントは行きたくても参加が難しい。」という意見もあり、潜在的な需要は伺える。特に進路選択の時期でありながら、小学生までと比べ、利用者数が4分の1にも落ち込む中高生世代には、アウトリーチサービスを取り入れつつ、必要な情報が行き届くための支援方法の改革が必要ではないか。

②他機関との関係性の構築

講義で学んだ先進的な図書館は、役場や連携機関の事業計画にも役割を持ってしっかりと名を連ねていることが多かった。営業力と関係性の構築の重要性を痛感するものであったが、その所以であろう積極的な営業活動、実績と信頼は今後当館でも徐々に積み重ねていくとして、まずは町の取り組みのどの部分を担えると主張できるのか意識して、企画を考察したい。

2-3 みらいへつながるビジネス支援

前述の『紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略』⁶にも、図書館の関連性は挙げられていないが、連携プロジェクトの内、特に「地域への愛着の醸成」・「タウンプロモーションの推進」・「地域コミュニティ支援」を行う「地域みらいづくりプロジェクト」では、当館の強みを発揮できると感じる。よって、ここへの参入を見据えつつ、子どものためのビジネス支援改革の一步として、次の企画を考察する。

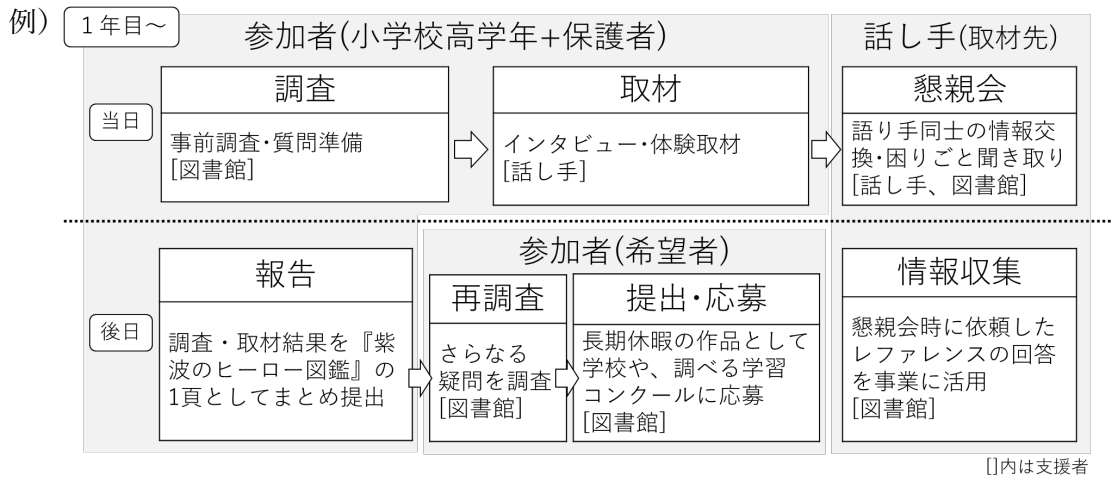
【紫波のヒーロー調査隊】

(1)概要

(1)-1 町と人を知るために

町には企業に加え、高い技術を持った人材や、活躍する移住者、地区の共同営農や商店街の派生組織⁸、地区の児童支援組織⁹といった住民の自主的な組織なども活躍している。しか

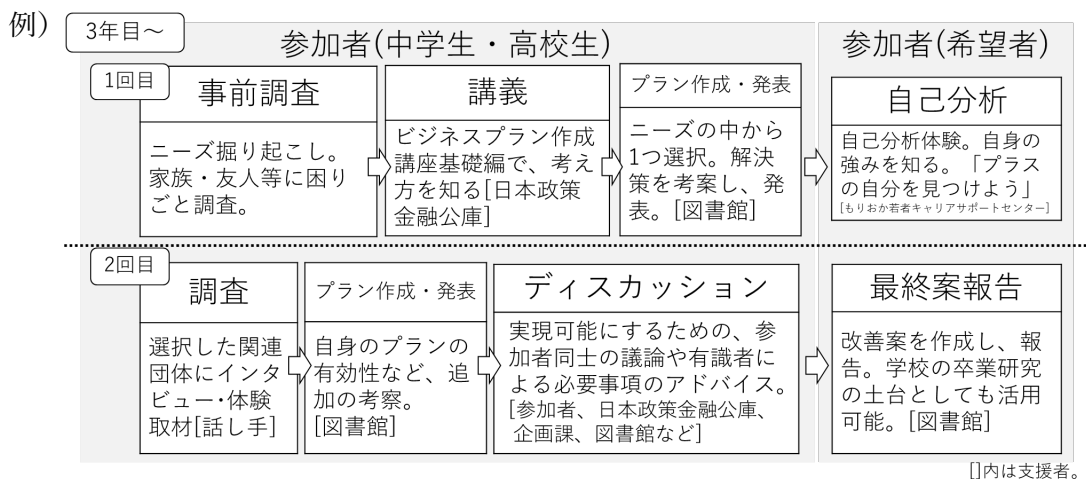
しその情報は様々な場所に点在、かつ大人向けである。そこで、将来を考える種ともなる、町での経験や情報不足の子どもたちが、事業者や活動団体等とつながる機会を提供するイベントを開催。図書館に留まらず、公民館や学校などを会場に、事業者や活動を行っている大人を子どもたちが取材し、『ヒーロー図鑑』としてまとめ、子ども自身の報告が図書館に所蔵・活用されていく。



話し手にとっても、活動周知の場だけでなく、情報を得る機会にもなるように、話し手同士や図書館との交流の場を設け、困りごとの明確化やレファレンスにもつなげたい。

(1)-2 方法を知るために

さらに中高生には、自分も「まちのヒーロー」になることを想定したビジネスプラン作成講座を、学校との連携で開催。将来を考えることにもつながる、段階的な体験とする。その際、関連する「まちのヒーロー」と結びつけ、プラン内容を充実させるとともに、完成後は協力者と対象の『ヒーロー図鑑』を一緒に図書館に展示、紹介する。



(1)-3 楽しく知る機会と収益化

『ヒーロー図鑑』が蓄積され、認知度が高まった先には、「ヒーローかるた」「カードゲーム」などの商品化も検討。町内外に広がることで、より幅広い子どもたちが楽しみながら親しみを持てる機会を創出する。制作には、IT スタジオ¹⁰や町のイラスト作家等を起用し、事業支援を兼ねる。

(2)効果

・子どもたちは町の大人たちの活躍を知り、町に誇りや愛着をもつことに加え、ビジネスの根幹や、アイデアを実現するために必要な術を学ぶことで、自身が事業を作り出すことを含めた将来の選択肢が増えることも期待できる。来年度より、中高生の部活動が必須ではなくなることから、校外活動の場としての支援にもなる。

・事業者や活動団体にとっては周知の機会となり、活動や文化の継承、さらには新たな活動につながることも期待できる。町の財産であるヒーローたちが、これまで以上に町の大事な財産として町内外に知られることを期待する。

・図書館にとっても、事業者等、非利用者との新たな関係性の構築、より利用者の声を反映させた資料収集ができる。また、町で活躍する方々の情報が蓄積し、新たな町の情報源としての活用が期待できる。

これらの循環から、将来、新たな働き方や継承、雇用の受け皿ができ、町でいきいきと活動する人が増えることを期待したい。そして以上のことから、「地域みらいづくりプロジェクト」の一助となりうる企画として、連携が可能であると考えている。

(3)活用できるこれまでの活動

・「夜のとしょかん」等各種イベント、展示…協力者がヒーロー候補となりうる。

・「聞き書き」事業…聞き手が話し手の生活や仕事の話などを聞き、その知恵や技、ものの考え方や生き方を学びつつ、文章にまとめる聞き書き。イベント進行の経験を活かすことができる。

・調べる学習コンクール…毎年学校の協力を得ながら事業を展開。参加者のフィールドワークにおいて、図書館が調査先の企業担当者と繋げたこともあり、経験を活かすことができる。

・学校支援…今年度より、学校図書館へのより深い支援事業を開始。1年目は実態把握につとめており、今後、さらに子どもたちに寄り添った支援を目指している。コミュニティ・スクール制度開始も相まって、学校や図書コーディネーターとの連携ができるのではないかな。

・IT スタジオとの連携…レーザーカッターなどを活かした連携や IT スタジオ製作のカー

ド排出機提供等の事例がある。商品開発で連携できるのではないか。

(4)広報活動

受け手に届く広報活動の重要性を学び、周知方法を省みることができた。それを活かし、従来の告知に加え、中高生に向けて次の広報を展開する。

- ・講義で実感したが、現在若者の情報収集手段は SNS で、中でも中高生の LINE 利用率の高さは顕著だった。¹¹当館では、主に町の広報やチラシ、地域新聞、Instagram と Facebook での情報発信を行っているが、中高生に届きにくいことが伺える。そこで、中高生向け LINE 公式アカウントを開設し告知に使用。情報収集やレファレンスの入口ともなりうるのではないか。

- ・イベント告知の他に、ストーリー性のある短文レファレンス事例と SNS の QR コード付きポスターを作成。進路選択等、関心が高まる複数の時期に、学習室、学校、駅の待合室等に掲示・配布することで、印象に残り、かつ自分ごととして目に留まるようにする。

- ・許可をいただいた、鳥取県立図書館の「マンガでわかる図書館活用事例」を中高の学校支援で活かしつつ、学校の先輩の図書館活用事例紹介等、生徒と教師が実感しやすい形で、図書館活用の多様性を感じてもらう。

おわりに

講義で伺った、「連携先は新しいクライアントである」「お願いしにいかない」という言葉が強く心に残っている。今まで学校等との連携で、本当に利となる存在でいられたらどうか。まずは連携先に寄り添い、使えると思ってもらうことが、結果的に子どもたち等、関係する人々への支援の道を開くことにもつながる。それは時に、「そういうもの」と思い込んできた従来の概念に囚われない視点が必要であり、時代と相手に合わせて変わっていかなければならないと実感した。また、多すぎて踏み出し方も分からなかった自身の鍛えるべき部分が可視化でき、目標も定めることができたので、研鑽に努めつつ、ヒューマンネットワークの構築や、武器となる資料や情報の収集、PR の機会を逃さない複数の切り札の用意等、活きる蓄えを 1 つ 1 つ増やしていきたい。

最後に、濃密でありながら親身に寄り添い、その後の活動のことまで考えた講義をしてくださった講師の皆様、暖かく様々な気付きをくださり、私ではたどり着けなかった企画を、班の企画として共に作り上げてくださった 1 班の皆様とアドバイザーの島津様、丁寧で安心感のある運営をしてくださった事務局の皆様我心から感謝申し上げます。

-
- 1 『第三次紫波町総合計画 後期基本計画まちづくり指標』
<https://www.town.shiwa.iwate.jp/material/files/group/10/0machidukurisihyor2nendo.pdf>
 - 2 「令和3年経済センサス - 活動調査」経営組織(2区分)別全事業所数及び男女別従業者数
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000032203465&fileKind=0>
 - 3 『第三次紫波町総合計画基本構想・前期基本計画 【全編】』
<https://www.town.shiwa.iwate.jp/material/files/group/10/2020-2027comprehensiveplan.pdf>
 - 4 『まちの通信簿 2019』 [https://www.town.shiwa.iwate.jp/material/files/group/10/2019all\(mokuji+P1-81\).pdf](https://www.town.shiwa.iwate.jp/material/files/group/10/2019all(mokuji+P1-81).pdf)
 - 5 紫波町のコミュニティ・スクール http://www.nishinomori.shiwacho.ed.jp/?page_id=624
 - 6 『第2期 紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年6月改訂』 [02_senryaku_20220607.pdf \(town.shiwa.iwate.jp\)](https://www.town.shiwa.iwate.jp/material/files/group/10/2020-2027senryaku_20220607.pdf)
 - 7 もりおか若者サポートステーション <https://saposute-morioka.net/wp/page/2/>
 - 8 日詰商店街の取り組み <https://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/2/3/2/9254.html>
 - 9 NPO 法人 古館まちづくりの会 <https://furu-machi.com/top/>
 - 10 IT サポートコーナー <https://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/4/2/tiikijouhouka/7649.html>
 - 11 【令和2年度】主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率
https://www.soumu.go.jp/main_content/000765135.pdf